全ダム・発電協発第 21 号
令 和 7 年 11 月 5 日

会員市町村長　殿

ダム・発電関係市町村全国協議会
会長　小山　修作（宮城県川崎町長）
（公印省略）

常任理事会・理事会等の概要報告について

本協議会の運営につきましては、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本協議会では、去る 10 月 7 日に常任理事会及び理事会、合同勉強会を開催いたしましたので、提出書類を送付するとともに、その概要を下記のとおりご報告申し上げます。

なお、関連会議の資料をホームページ（https://damhpp.org/）に掲載しております。閲覧には会員用パスワード入力が必要ですので、まだ未登録の会員市町村におかれましては、事務局まで登録希望の旨ご連絡ください。

記

【常任理事会概要】

１．日　　時　令和 7 年 10 月 7 日（火）14 時～14 時 30 分

２．場　　所　全国町村会館 2 階第 1 会議室

３．出 席 者　8 名（うち代理出席 1 名）

４.協議事項
(1)議案第 1 号　役員の選任について
(2)議案第 2 号 令和 8 年度予算編成に向けた要望事項（案）について
(3)その他

５．概　　要
小山修作副会長（宮城県川崎町長）の挨拶の後、議事に入り、議案第 1 号「役員の選任」について、同 2 号「令和 8 年度予算編成に向けた要望事項（案）」について、原案の通り了承され、理事会で提案されることとなった。
また、事務局から「小水力開発推進に向けたフォローアップについて」説明した。

【理事会概要】

１．日　　時　令和 7 年 10 月 7 日（火）14 時 30 分～15 時 30 分

２．場　　所　全国町村会館 2 階ホール

３．出 席 者　15 名（うち代理出席 2 名）

４．政策説明
「水力発電政策について」
経済産業省資源エネルギー庁
省エネルギー・新エネルギー部新エネルギー課係長　　矢久保 兼斗　氏

５．議　　事
(1)議案第１号 役員の選任について
(2)議案第２号
「ダム・発電関係市町村振興対策の充実・強化に関する要望」（案）及び
「地域が主体となった小水力発電の導入に関する要望」（案）について
(3)報告「小水力開発推進に向けたフォローアップについて」
(4)その他

６．概要
小山修作副会長（宮城県川崎町長）の挨拶の後、政策説明として「水力発電にかかる現状・展望について」と題し、経済産業省資源エネルギー庁、省エネルギー・新エネルギー部新エネルギー課、矢久保兼斗係長より、令和６年度補助事業の経過報告や小水力発電のモデル事例について説明を聴取した。
続いて議事に入り、議案第１号「役員の選任」について原案のとおり可決され、新会長に小山修作宮城県川崎町長が選出された。役員を代表して小山新会長から就任挨拶があった。
続いて、議案第２号「ダム・発電関係市町村振興対策の充実・強化に関する要望（案）」及び「地域が主体となった小水力発電の導入に関する要望（案）」について原案のとおり決定された。
最後に、「小水力開発推進に向けたフォローアップについて」、９月下旬に実施した広島県内の会員市町村への訪問及び来年度のセミナー予定等を事務局から報告し、今後の取組について承認いただいた。

（就任挨拶を行う小山会長）

（資源エネルギー庁　矢久保係長）

（理事会会場の様子）

【ダム・発電関係市町村等振興議員連盟との合同勉強会概要】

1. 日　時　　令和７年10月７日(火)15時45分～16時45分

2. 場　所　　自民党本部701

3. 出席者
① ダム・発電関係市町村全国協議会理事、会員市町村長等
② ダム・発電関係市町村等振興議員連盟入会国会議員等

4. 活動報告

「地域のための小水力発電にかかる決議」申し入れについて

5. 合同勉強会

「小水力発電開発におけるモデル支援事業について」

ダム・発電関係市町村全国協議会事務局

地域のための小水力発電に関する研究会委員・中国高圧コンクリート工業株式会社相談役　　吉岡　一郎　氏

6. 概　要

はじめに、宮下一郎ダム・発電関係市町村等振興議員連盟会長より「急峻な地形を持つ日本では持続可能で自然と共生をしながらエネルギーを得られる小水力は非常に重要であり、日本の重要な再生可能エネルギーを支えるのは、全国のダム立地市町村であると強く感じている。」と挨拶があった。

（宮下一郎　ダム・発電議連会長）

その後、小山修作ダム・発電関係市町村全国協議会会長（宮城県川崎町長）が挨拶し、「宮下会長をはじめ議連の先生方にはご指導いただき感謝申し上げる。」と述べた。

次に、進藤ダム・発電関係市町村等振興議員連盟事務局長から「地域のための小水力発電にかかる決議」について申し入れを実施した旨を報告した。

（進藤金日子 ダム・発電議連事務局長）

続いて、「小水力発電開発におけるモデル支援事業」についてダム・発電関係市町村全国協議会事務局及び吉岡一郎氏から、資料に基づき説明があった。

昨年５月に取りまとめた「地域のための小水力発電に関する研究会報告書」のフォローアップ事業として９月下旬に訪れたモデル地点候補である広島県北広島町及び大崎上島町の調査概要の報告を行った。（詳細は資料「小水力発電開発におけるモデル事業について」を参照）。

（堀内詔子 ダム・発電議連幹事長）

その後の意見交換では、堀内幹事長から「山梨県は小水力に向いている市町村がたくさんあって、小水力発電をより多くの村に実践していただけるように頑張って参りたい」と発言があった。

宮下会長からは「小水力発電の開発コストや採算性」、「CO^2フリー電源についての今後の制度設計の在り方」等についての質問があった。

（吉 岡 一 郎　　委

それに対して、吉岡氏はまず、開発費用について「一般的に言われている建設費は、1kW 当たり 100 万円～200 万円で、それを超えると事業性が厳しいのではないか。」と回答。次に、採算性については「FIT、FIP による採算性は、おそらく事業としてやられている以上、最低限の採算性は考えられていると思う。」と答えた。今後の制度設計については、「全量を送配電会社に売るのが前提ではなく、我々の発電所からできる水力発電でできたグリーン電力を買うところはありますかといって手を挙げてもらう、そういう制度の可能性は、十分にあると思っている。」と述べた。

（詳細な質疑内容は別紙参照）

最後に宮下会長から挨拶ののち、閉会した。　　（了）